

第 50 回 幹 事 会

平成 20 年 1 月 24 日

日 本 学 術 会 議

配布資料

- 資料 1 議事次第
- 資料 2 出席者一覧
- 資料 3 非公開審議事項
- 資料 6 第48回、第49回議事要旨
- 資料 7 諸報告
- 資料 8 審議事項
- 資料 9 対外報告「渇水対策・沙漠化防止に向けた人工降雨法の推進」
- 参考 1 科研費の繰越申請手続き
- 参考 2 外部へ公表する文書の取扱いについて
- 参考 3 今後の予定

日 時 平成20年1月24日(木) 14:00～

議 題

I 非公開議事項

1 委員会関係

- 提案1 国際委員会における小分科会の設置及び委員の決定 P. 1
 提案2 分野別委員会における分科会等の設置及び委員の決定 P. 9
 提案3 生殖補助医療の在り方検討委員会の設置期間及び委員の任期の延長 P. 16

2 その他

- 提案4 東京弁護士会 綱紀委員会委員及び予備委員の推薦 P. 18
 提案5 第一東京弁護士会 綱紀委員会委員及び予備委員の推薦 P. 19
 提案6 日本学術振興会評議員の推薦 P. 20
 提案7 連携会員の辞職の承認 P. 21

II 前回幹事会以降の諸報告

III 審議事項

1 対外報告

- 提案10 「渇水対策・沙漠化防止に向けた人工降雨法の推進」 P. 1

2 団体の指定

- 提案11 日本学術会議協力学術研究団体の指定 P. 2

3 国際会議関係

- 提案12 平成19年度代表派遣の変更(2月実施分) P. 3
 提案13 平成22年度国際会議の共同主催候補の決定 P. 5

4 シンポジウム等

- 提案14 「むげんたい∞のこどもたち」展(イベント) P. 6
 提案15 「高齢者の健康増進のための学際的アプローチ」(シンポジウム) P. 8
 提案16 「専門薬剤師の必要性和今後の展望」(シンポジウム) P. 9
 提案17 「グローバル・イノベーション・エコシステム2008(GIES2008)」(シンポジウム) P. 11
 提案18 「グローバル化の中の法」(シンポジウム) P. 12
 提案19 「幼児期から発育期の子どもの身体活動・スポーツガイドライン」(シンポジウム) P. 13
 提案20 「21世紀を豊かに生きるための科学技術の智」(シンポジウム) P. 15
 提案21 「地球環境の変動—科学の目で見るその面白さ」(シンポジウム) P. 16
 提案22 「グローバル化と社会政策—排除から包摂へ—」(シンポジウム) P. 17
 提案23 「これからの社会福祉教育—社会福祉士のカリキュラム改正に向けて—」(シンポジウム) P. 19
 提案24 「ものづくりイノベーションに向けた生産科学提言」(シンポジウム) P. 20
 提案25 「医学系における公衆衛生大学院」(シンポジウム) P. 21
 提案26 「「地域の知」の統合に向けて：地域情報データベースの利活用」(シンポジウム) P. 23
 提案27 「水産学と日本水産学会の未来」(シンポジウム) P. 25
 提案28 「昆虫科学が拓く世界—研究者の再結集を目指して—」(シンポジウム) P. 27
 提案29 「地球環境問題の現状と私たちの健康・産業保険の役割」(シンポジウム) P. 29

5 後援
提案 30 国内会議

P. 31

IV その他

第 50 回 幹事会（1 月 24 日）出席者一覧

| | |
|-----|---------|
| 会 長 | 金 澤 一 郎 |
| 副会長 | 鈴 村 興太郎 |
| 副会長 | 土 居 範 久 |

| | | |
|-----|-----|---------|
| 第一部 | 部長 | 広 渡 清 吾 |
| | 副部長 | 佐 藤 学 |
| | 幹事 | 江 原 由美子 |
| | 幹事 | 小 林 良 彰 |

| | | |
|-----|-----|---------|
| 第二部 | 部長 | 唐 木 英 明 |
| | 副部長 | 北 島 政 樹 |
| | 幹事 | 鷺 谷 いづみ |

| | | |
|-----|-----|---------|
| 第三部 | 部長 | 海 部 宣 男 |
| | 副部長 | 小 林 敏 雄 |
| | 幹事 | 河 野 長 |
| | 幹事 | 大 垣 眞一郎 |

| | |
|-----|---------|
| 事務局 | 谷 口 局 長 |
|-----|---------|

諸 報 告

第 1 前回幹事会以降の経過報告

- | | | |
|---|----------|------|
| 1 | 会長等出席行事 | P. 1 |
| 2 | 審議付託等 | P. 1 |
| 3 | 賞等の推薦 | P. 1 |
| 4 | 委員会委員の辞任 | P. 1 |

第 2 各部・各委員会等報告

- | | | |
|---|----------------|------|
| 1 | 機能別委員会の開催とその議題 | P. 1 |
| 2 | 分野別委員会の開催とその議題 | P. 3 |
| 3 | 課題別委員会の開催とその議題 | P. 8 |
| 4 | サイエンスカフェの開催 | P. 9 |
| 5 | 総合科学技術会議報告 | P. 9 |

第1 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

| 月 日 | 行 事 等 | 対 応 者 |
|----------|--------------------------------|-------------------------------------|
| 1月10日(木) | 講書始めの儀 | 浅島副会長、土居副会長、廣渡第一部部長、海部第三部部長、山本第二部幹事 |
| 1月15日(火) | ニュージーランド大使主催昼食会 | 金澤会長、中村補佐 |
| 1月16日(水) | 特別シンポジウム「21世紀、科学技術とどう向き合っていくか」 | 金澤会長、浅島副会長 |
| 1月21日(月) | 岸田大臣と総合科学技術会議議員との意見交換会 | 金澤会長 |

2 審議付託等

| 件 名 | 申 請 者 | 審議・付託先 |
|---|---------------------------|--------|
| 平成19年度教育改革国際シンポジウムー学校教育における科学的リテラシーの現状と今後の育成方策ー | 国立教育政策研究所長 | 各部 |
| 土と肥料の講演会 | 社団法人 日本土壤肥料学会会長 | 第二部 |
| グローバル環境教育国際会議 2008 | 国立大学法人北海道教育大学長 | 第三部 |
| 第21回日本歯科医学総会 | 日本歯科医学会会長、第21回日本歯科医学会総会会頭 | 第二部 |

3 賞等の推薦

| 件 名 | 照会先 | 備 考 |
|-----------------------------|-----|-----|
| SCIENTIFIC GRAND PRIZE 2008 | 各部 | 見送り |

4 委員会委員の辞任

地球惑星科学委員会国際対応分科会 IGCP 小委員会

石田 啓祐(平成19年12月7日付)

地球惑星科学委員会国際対応分科会 IYPE (国際惑星地球年) 小委員会

佐脇 貴幸(平成20年1月7日付)

第2. 各部・各委員会報告

1 機能別委員会の開催とその議題

(1) 選考委員会会員候補者選考実務分科会生命科学分野会員候補者実務小分科会 (第1回)
(12月28日)

- ① 役員の選任
- ② 小分科会の運営方針について
- ③ 会員選考のプロセスについて
- ④ 今後のスケジュールについて
- ⑤ その他

(2) 科学者委員会 (第33回) 1月7日 (月)

- ① 日本学術会議協力学術研究団体の指定
- ② 平成20年度日本学術会議主催公開講演会の企画案募集
- ③ 日本学術会議地区会議運営協議会委員の選出
- ④ その他

(3) 科学者委員会男女共同参画分科会 (第12回) 1月7日 (月)

- ① アンケート調査
- ② 海外における男女共同参画の取組状況
- ③ 学術分野のポジティブ・アクション
- ④ 最終報告書
- ⑤ その他

平成19年度日本学術会議主催公開講演会「人口とジェンダー～少子化対策は可能か～」を1月12日(土)に日本学術会議講堂にて開催した。

(4) 科学者委員会学協会機能強化方策検討等分科会学協会の公益機能検討等小分科会

(第1回) (1月23日)

- ① 役員の指名と同意
- ② 公益法人制度改革について意見交換
- ③ 今後の予定
- ④ その他

(5) 国際委員会日英学術交流分科会 (第20期・第4回) (1月18日)

- ① 新委員の紹介
- ② 在京英国大使館との打合せ(報告)
- ③ 今後のスケジュール及び進め方について
 - 1) Royal Society との事前打合わせ(3月)
 - 2) 関係委員の追加
- ④ その他

(6) 国際委員会G8学術会議分科会 (第12回) (12月26日)

- ① G8学術会議共同声明について

②その他

(7) 国際委員会G 8 学術会議分科会 (第13回) (1月7日)

①G 8 学術会議について

②その他

(8) 国際委員会国際対応戦略立案分科会 (第9回) (1月21日)

①加入国際学術団体ヒアリング結果について

②その他

(9) 国際委員会 AASSREC 等分科会 (第16回) (12月25日)

①第17回AASSREC隔年総会について

- 「学術の動向」への掲載原稿について
- 成果の刊行について
- 会計について
- その他

②IFSSOについて

- 平成20年度代表派遣について
- 次回理事会及び総会について

③今後のAASSREC及びIFSSOについて

(10) 国際委員会持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2008 分科会
(第2回) (1月9日)

①分科会委員について

②会議概要について(日時及び場所・後援等)

③プログラムについて(構成・講演者等)

④今後のスケジュールについて

2 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 史学委員会 歴史・考古史資料の情報管理・公開に関する分科会

(第5回) (12月21日)

① 保立道久氏「東大史料編纂所における史料収集・保存・利用・公開等について(仮題)」 ②今後の分科会の課題 ③その他

(2) 社会学委員会 ジェンダー学分科会 (第5回)、

史学委員会 歴史学とジェンダーに関する分科会 (第4回) 合同分科会 (12月21日)

- ① 公開講演会「人口とジェンダー～少子化対策は可能か～」について
 - 1) 報告者による内容の共有
 - 2) プログラムや広報の確認
- ②その他

(3) 史学委員会 IUHPS分科会 (第5回) (12月21日)

- ①科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会の設置とメンバー選定
- ② ダーウィン・シンポの準備
- ③図書アンケートの処理と今後の対策
- ④報告：会員、連携会員の改選状況
- ⑤その他

(4) 法学委員会 ファミリー・バイオレンス分科会 (第6回) (12月21日)

- ①委員からの報告
戒能委員より「台湾と韓国のファミリー・バイオレンス対策」についての報告
- ②その他

(5) 社会学委員会 少子高齢社会分科会 (第5回) (12月22日)

- ①第2回公開シンポジウムの運営について
- ②第3回公開シンポジウムについて
- ③対外報告について
- ④その他

(6) 地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IHDP分科会
(第8回) (12月22日)

- ①本日のシンポジウムのプログラム修正部分の報告
- ②低負荷の都市像づくりに関する意見交換
- ③小委員会の確認及び新設
- ④次回分科会の日程

(7) 経営学委員会 経営リテラシー分科会 (第5回) (12月25日)

- ①「公民科および商業科の学習指導要領の改訂」について
報告者：大倉泰裕 (文部科学省初等中等教育課程課教科調査官)
報告者：吉野公一 (文部科学省視学官)
- ②その他

(8) 言語・文学委員会 古典文化と言語分科会 (第7回) (12月26日)

- ①話題提供：片桐文雄 (川崎市立東生田小学校校長)「小学校の国語教育の現状と課題」
- ②語学・文学委員会で予定している2つの対外報告について
- ③その他

(9) 経営学委員会 経営リテラシー分科会 (第6回) (1月6日)

- ①報告書原稿の仕上げ方について
- ②その他

- (10) **心理学・教育学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同 高校地理歴史科教育に関する分科会** (第5回) (1月6日)
 ①地理関係の統合科目について (山口委員) ②世界史・日本史統合科目の単位問題について (桜井委員・高橋委員) ③その他
- (11) **地域研究委員会 地域研究基盤整備分科会** (第6回) (1月10日)
 ①地域情報分科会との意見交換 ②対外報告の取りまとめについて ③その他
- (12) **社会学委員会 ジェンダー学分科会** (第6回)、**史学委員会 歴史学とジェンダーに関する分科会** (第5回) 合同分科会 (1月12日)
 ①本日の公開講演会の運営について ②その他
- (13) **社会学委員会 ジェンダー学分科会** (第7回)、**史学委員会 歴史学とジェンダーに関する分科会** (第6回) 合同分科会 (1月12日)
 ①本日の公開講演会の結果と今後の分科会活動について ②関連学協会との意見交換
- (14) **地域研究委員会** (第10回) (1月17日)
 ①地域情報に関する提言の検討 ②その他
- (15) **心理学・教育学委員会 健康・医療と心理学分科会** (第3回) (1月21日)
 ①厚生労働省の見解 (厚生労働省社会・援護局障害福祉課)
 ②関係機関の状況の報告 ③委員会報告の作成について
- (16) **史学委員会 国際歴史学会議等分科会** (第6回)、
史学委員会 国際歴史学会儀等分科会 国際歴史学会議小委員会 (第4回)
 合同会議 (1月21日)
 ①国際歴史学会議アムステルダム大会のための報告者等候補者推薦について
 ②その他

第二部担当

- (1) **臨床医学委員会 循環器分科会** (第2回) (12月21日)
 ①今後の活動方針について ②その他
- (2) **基礎生物学委員会・農学基礎委員会・生産農学委員会・基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 I UMS分科会** (第6回)、**基礎生物学委員会・応用生物学委員会・農学基礎委員会合同 総合微生物科学分科会** (第6回)
 合同分科会 (12月21日)
 ① 学術会議G8 (地球環境と感染症) への対応について ②日本微生物学連盟の設立及び意義の確認 ③日本微生物学連盟の現状と説明 ④日本微

生物学連盟との打ち合わせ ⑤ I U M S 2 0 0 8 Istanbul への準備状況
⑥ I U M S 2 0 1 1 Sapporo に向けた国内組織作りについて ⑦その他

(3) **健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会** (第8回) (12月22日)

①健康・スポーツ科学分科会対外報告の骨子について ②若手研究者育成
セミナーの開催について ③「幼児から発育期の子どもの運動ガイドライン
策定」関係他シンポジウムの開催について ④健康・スポーツ科学関連学協会
との連携及び連合体について ⑤健康・スポーツ科学分野における男女共同参画
調査について ⑥その他

(4) **生産農学委員会 林学分科会** (第4回) (12月25日)

①林学分科会シンポジウムの開催について ②その他

(5) **基礎生物学委員会・応用生物学委員会・農学基礎委員会・基礎医学委員会
合同 遺伝資源分科会** (第2回) (12月25日)

①幹事の選出について
②わが国の遺伝資源整備の推薦方策について
1) 現状と問題点の把握 2) 推進に向けた論点の整理
3) 今後の分科会活動について
③その他

(6) **健康・生活科学委員会 看護学分科会** (第8回) (12月27日)

①対外報告の内容確認と討議
1) 終末期医療における看護の役割拡大 2) 周産期の健康問題における看護の
役割拡大 3) 小児医療における看護の役割拡大 4) 高齢者の健康問題に
おける看護の役割拡大 5) 僻地医療における看護の役割拡大
②いのち / ケアの教育班の報告と討議
③今後の活動予定
1) 報告書推敲の日程 2) シンポジウム開催の予定

(7) **薬学委員会 医療系薬学分科会** (第3回) (1月8日)

①学術会議及び医療系薬学分科会の関連分科会の動向について ②医療系薬学
における学術のあり方について ③分科会の今後の方針について (シンポジウム
企画等) ④他分科会、他領域との連携について ⑤その他

(8) **基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 基礎・臨床医学研究グランドデザイン
検討分科会** (第3回) (1月8日)

①対外報告 (提言) について ②その他

(9) **臨床医学委員会** (第5回) (1月11日)

①課題別委員会からの報告について（各課題別分科会委員長からの報告、意見交換） ②臨床医学分野のあり方一本委員会の構成、今後に取り組むべき問題等について ③その他

(10) **健康・生活科学委員会 生活科学分科会**（第10回）（1月15日）

①シンポジウムについて ②その他

(11) **臨床医学委員会 感覚器分科会**（第8回）（1月15日）

①感覚器医学ロードマップ ②感覚器サミット ③来年度の市民公開講座
④その他

(12) **薬学委員会 専門薬剤師分科会**（第2回）（1月17日）

①「病院薬剤師の目指す方向と専門薬剤師の役割」 講演者：堀内龍也 先生
②その他

(13) **歯学委員会**（第12回）（1月18日）

【委員会単独】

①合同会議について ②今後の活動について ③その他

【委員会・学会協議会合同会議】

①挨拶 歯学委員会委員長 瀬戸皖一

②挨拶 日本歯学系学会協議会理事長 赤川安正

③日本の学術のあり方と学協会の役割（仮題）

日本学術会議会長 金澤一郎

④日本学術会議と学協会連合体との連携のあり方（仮題）

日本学術会議福会長 浅島 誠

⑤公益法人改革の進捗 内閣府 渡辺参事官補佐 ⑥質疑応答 ⑦その他

第三部担当

(1) **地球惑星科学委員会**（第18回）（12月25日）

①幹事会・第三部役員会報告 ②シンポジウムの企画について ③第3回
推進分科会について ④各分科会活動報告 ⑤19大学地球科学学科長会議
報告 ⑥その他

(2) **地球惑星科学委員会 INQUA分科会**（第2回）（12月26日）

①INQUA大会報告 ②INQUA国内委員会の新体制について

③平成20年度代表派遣候補者について ④2015年INQUA大会招致
について ⑤2008年度の国内活動について ⑥その他

- (3) 地球惑星科学委員会 地球惑星科学推進分科会 (第3回) (12月26日)
- ①報告及び質疑
 - 1) 学術会議全体 2) 各分科会 3) 国際地学、地理オリンピック
 - 4) 地球惑星科学連合 5) その他
 - ②審議
 - 1) 推進分科会の今後のあり方 2) その他
- (4) 化学委員会 アジア化学イニシアティブ分科会 (第3回) (12月27日)
- ①アジアの新潮流に対する学産独連携新教育コンソーシアムの構築について
 - ②アジア化学連合 (FACS) に対する今後の対応について
 - ③アジア化学イニシアティブ分科会の今後の活動方針について ④その他
- (5) 環境学委員会・数理科学委員会・物理学委員会・地球惑星科学委員会・情報学委員会・化学委員会・総合工学委員会・機械工学委員会・電気電子工学委員会・土木工学・建築学委員会・材料工学委員会合同若手・人材育成問題検討分科会 (第5回) (12月27日)
- ①化学委員会の対外報告について ②教育再生会議の第三次報告について
 - ③提言のまとめ方について ④その他
- (6) 物理学委員会 IAU分科会 (第8回)、物理学委員会 天文学・宇宙物理学分科会 (第7回) 合同分科会 (1月7日)
- ①シンポジウムの結果報告 ②天文学・宇宙物理学長期計画の今後の進め方について ③その他
- (7) 機械工学委員会 生産科学分科会 (第6回) (1月11日)
- ①提言に向けて ②その他
- (8) 土木工学・建築学委員会 建設と社会分科会 (第10回) (1月15日)
- ①学術の動向特集の進捗状況について ②ICSU会議報告 ③話題提供
 - ④その他
- (9) 情報学委員会 ユビキタス空間情報社会基盤分科会 (第4回) (1月16日)
- ①対外報告素案検討 ②その他
- (10) 地球惑星科学委員会 IGU分科会 (第5回) (1月17日)
- ①IGUの役員選挙について ②IGUの動静について ③IYPEについて
 - ④地理オリンピックについて ⑤IGU地域会議の日本への招致について
 - ⑥その他

(11) 地球惑星科学委員会 地球・惑星圏分科会 (第6回) (1月19日)

①報告事項 ②今後の活動について ③その他

(12) 総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会

(第3回) (1月21日)

①環境・エネルギーに関するアジア諸国との科学技術連携 ②原子力とシミュレーションー現状と展望 ③新エネルギーの現状と問題点 ④その他

(13) 地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会 (第12回) (1月22日)

①各ワーキンググループの報告と全体検討会 ②その他 ③ワーキンググループ別検討会

3 課題別委員会の開催とその議題

(1) 生殖補助医療の在り方検討委員会 (第13回) (12月26日)

①国籍法、国際私法について ②報告書の論点整理 ③その他

(2) 地球温暖化等、人間活動に起因する地球環境問題に関する検討委員会

(第3回) (12月28日)

①各WGにおける作業状況の報告 ②報告書(案)について
③シンポジウムについて ④その他

(3) 生殖補助医療の在り方検討委員会 (第14回) (1月18日)

①報告書の論点整理 ②報告書(案)について ③その他

(4) 医療のイノベーション検討委員会 (第3回) (1月23日)

①論点の整理について ②その他

4 サイエンスカフェの開催

1月12日(金) 14:30~16:30

場 所: 鶴見大学記念館大学食堂

テーマ: 時を超えたメッセージ文化財学・解剖学入門

講 師: 加藤寛(鶴見大学文学部文化財学科教授)

小寺春人(鶴見大学歯学部解剖学教室講師)

1月18日(金) 18:30~20:30

場 所: サロンド富山房 FOLIO

テーマ: 哺乳動物リボゾームRNA遺伝子は、染色体上をどのように動いているか

講 師：神田尚俊（東京農工大学教授）
室伏きみ子（お茶の水女子大学教授）

1月20日（日）14：00～16：00

場 所：大阪府立中央図書館 1階多目的ホール

テーマ：「科学・技術と私たちの未来」 人を幸せにする身近な科学・技術 ～携帯電話からの道案内サービスの開発から～

講 師：本田孔士（大阪赤十字病院 病院長）
土井美和子（株式会社東芝 研究開発センター技監）

1月24日（木）18：00～20：30

場 所：旭川市科学館「サイパル」1階学習研修室

テーマ：「IYPE（国際惑星地球年）と地球環境」

講 師：佃栄吉（独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター代表）
氷見山幸夫（北海道教育大学教授・日本学術会議連携会員）

5 総合科学技術会議報告

1 本会議

*第72回

12月25日

- (1) 平成20年度科学技術関係予算案について
- (2) 科学技術振興調整費の配分の基本的考え方、iPS細胞等について
- (3) 最近の科学技術の動向

2 専門調査会

なし

3 総合科学技術会議有識者議員会合

- ・ 1月24日 *会長出席

4 その他

iPS細胞研究WG（第1回）1月20日

審 議 事 項

- (対外報告)
- 提案 10 「渇水対策・沙漠化防止に向けた人工降雨法の推進」 P. 1
(団体の指定)
- 提案 11 日本学術会議協力学術研究団体の指定 P. 2
(国際会議関係)
- 提案 12 平成 19 年度代表派遣の変更 (2 月実施分) P. 3
- 提案 13 平成 22 年度国際会議の共同主催候補の決定 P. 5
(シンポジウム等)
- 提案 14 「^{むげんだい}∞ のこどもたち」展 (イベント) P. 6
- 提案 15 「高齢者の健康増進のための学際的アプローチ」(シンポジウム) P. 8
- 提案 16 「専門薬剤師の必要性と今後の展望」(シンポジウム) P. 9
- 提案 17 「グローバル・イノベーション・エコシステム 2008(GIES2008)」(シンポジウム) P. 11
- 提案 18 「グローバル化の中の法」(シンポジウム) P. 12
- 提案 19 「幼児期から発育期の子どもの身体活動・スポーツガイドライン」
(シンポジウム) P. 13
- 提案 20 「21 世紀を豊かに生きるための科学技術の智」(シンポジウム) P. 15
- 提案 21 「地球環境の変動－科学の目で見るその面白さ」(シンポジウム) P. 16
- 提案 22 「グローバル化と社会政策－排除から包摂へ－」(シンポジウム) P. 17
- 提案 23 「これからの社会福祉教育－社会福祉士のカリキュラム改正に向けて－」
(シンポジウム) P. 19
- 提案 24 「ものづくりイノベーションに向けた生産科学提言」(シンポジウム) P. 20
- 提案 25 「医学系における公衆衛生大学院」(シンポジウム) P. 21
- 提案 26 「「地域の知」の統合に向けて：地域情報データベースの利活用」(シンポジウム) P. 23
- 提案 27 「水産学と日本水産学会の未来」(シンポジウム) P. 25
- 提案 28 「昆虫科学が拓く世界－研究者の再結集を目指して－」(シンポジウム) P. 27
- 提案 29 「地球環境問題の現状と私たちの健康・産業保険の役割」
(シンポジウム) P. 29
- (後援)
- 提案 30 国内会議の後援 P. 31

| | |
|-----|----|
| 10 | |
| 幹事会 | 50 |

提 案

対 外 報 告

「渇水対策・沙漠化防止に向けた人工降雨法の推進」

1. 提案者 農学基礎委員会委員長
2. 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
3. 提案理由 農学基礎委員会農業生産環境工学分科会における対外報告を別添(資料9)のとおり取りまとめたので、これを外部に公表したため。

記

日本学術会議会則第二条第三号の
「対外報告」として取り扱うこと

| | |
|-----|----|
| 11 | |
| 幹事会 | 50 |

提 案

日本学術会議協力学術研究団体の指定

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、
科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答することとしたい。

記

- 指定することを適当と認める。

(申請団体名)

進化経済学会
 日本社会学理論学会
 日本マイクロカウンセリング学会
 日本鋼構造協会
 日本補完代替医療学会
 アジア系アメリカ文学研究会
 日本薬剤疫学会
 日本余暇学会
 生き物文化誌学会
 日本教授学習心理学会
 臨床教科教育学会
 日本中性子科学会
 (社) 国際環境研究協会
 生活科学系コンソーシアム

- 指定することを適当と認めない。

(申請団体名)

日本医療秘書学会

| | |
|-----|----|
| 12 | |
| 幹事会 | 50 |

提 案

平成19年度代表派遣の変更について（2月実施分）

- 1 提案者 会長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり変更すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第21条第2項及び附則第3項の規定に基づくものである。

<参考> 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」（抄）

（派遣実施計画の変更等）

- 第21条** 関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画若しくは派遣者の変更をすべき事情が生じた場合は、その理由を付して速やかに会長に通知しなければならない。
- 2 会長は、前項の規定による通知があった場合は、理由を付して改めて幹事会の承認を得るものとする。ただし、やむを得ない事由により事前に幹事会の承認が得られない場合は、事後に追認を求めるものとする。

附 則

- 3 平成19年度国際学術交流代表派遣実施計画に係る代表派遣については、なお従前の例による。

別紙

| 会議名称 | 派遣期間（会期分） | 開催地（国） | 派遣者 | 変更内容 | 変更理由 |
|---------------------------------|-----------|------------|--------------------|--------|-----------|
| 第16回 IUPAB 国際会議 / 第18回 IUPAB 総会 | 2月1日～2月7日 | ロングビーチ（米国） | 曾我部正博 ↓ 難波啓一 | 派遣者の変更 | 派遣者の都合のため |

| | |
|-----|----|
| 13 | |
| 幹事会 | 50 |

提 案

平成 22 年度開催国際会議の共同主催候補

- 1 提 案 者 会長
- 2 議 案 平成 22 年度開催国際会議の共同主催候補は、下記の 7 件とする。
- 3 提案理由 標記について、共同主催の申請があった平成 22 年度開催国際会議に関する国際委員会国際会議主催等検討分科会の審議に基づき、提案するものである。

記

- ・ 第 1 回世界加速器会議
- ・ 第 21 回 IUPAC 化学熱力学国際会議
- ・ 第 9 回プラトン・シンポジウム
- ・ 第 14 回国際免疫学会議
- ・ 第 23 回国際霊長類学会大会
- ・ 第 7 回国際整形外科基礎学術集会
- ・ 第 29 回国際臨床神経生理学会

<参考>「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」(抄)

(共同主催の決定)

第 34 条 会長は、前条の審議結果に基づき、幹事会の議決を経て共同主催の候補を決定する。

2 会長は、共同主催の候補となった国際会議に関する予算措置をもって共同主催を決定し、その旨を申請者に通知するものとする。

| | |
|-----|----|
| 14 | |
| 幹事会 | 50 |

提 案

「^{むげんだい}∞ のこどもたち」展の開催

- 1 提案者 科学と社会委員会委員長
- 2 議 案 標記イベントを下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議科学と社会委員会科学力増進分科会
日本科学未来館、「∞のこどもたち」展実行委員会、
東京都図画工作研究会 がんばれ！図工の時間！！フォーラム
- 2 協 賛 東京大学大学院情報学環、NPO 学習環境デザイン工房、映像情報メ
ディア学会、電子情報通信学会日本教育心理学会、日本色彩学会、
日本心理学会、日本バーチャル・リアリティ学会
- 3 後 援 文部科学省（予定）、全国造形教育連盟、東京都小学校 PTA 協議会、
日本放送協会（予定）
- 4 協 力 文部科学省科学技術振興調整費東京大学大学院情報学環コンテンツ
創造科学産学連携教育プログラム、東京大学大学院情報学環コンテ
ンツ教育研究コア
- 5 日 時 平成20年2月24日（日）～3月3日（月）
- 6 会 場 日本科学未来館（江東区青海2丁目41番地）
- 7 次 第

開催趣旨：こどもたちには∞の可能性がある。夢がある。その可能性と夢を育てることが未来の科学、そして文化につながる。いまのこどもたちは、たとえば学校の図画工作の時間で、何を創造しているのか？こどもたちの可能性と夢を育てるために、未来へ向けていま何をすべきなのか？ここでは、これからの時代を担うこどもたちを主役にして、その∞の可能性を信じて、科学と文化の未来を、ともに考えます。

プログラム：

（開会挨拶） 科学力増進分科会委員長 毛利 衛

（1）トークサロン 『感じる、考える、表現する』

日時：2008年2月24日（日）15時半～17時

会場：日本科学未来館1階シンボルゾーン

出演：藤幡正樹（東京藝術大学教授、大学院映像研究科長）

季里（CGアーティスト、七音社）

原島 博（連携会員、東京大学大学院情報学環教授）

(2) シンポジウム 『「教える」から「学ぶ」へ さらにその先に来るもの』

日時：2008年3月2日（日）14時～16時

会場：日本科学未来館7階会議室3

出演：奥村高明（文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官）

佐伯 胖（青山学院大学ヒューマンイノベーション研究センター所
長）

原島 博（連携会員、東京大学大学院情報学環教授）

辻 政博（文京区誠之小学校 東京都図画工作研究会会長）

(3) 展示

①こどもたちからの発信

こどもたちはこのような絵を描いている、作品を作っている。

図画工作の時間の楽しさを体験する参加型ワークショップ(あなたもどうぞ)

②未来への発信

いま学校で図画工作教育は？ これからの図画工作教育、美術教育、表現教育

「がんばれ！図工の時間！！」応援メッセージ

| | |
|-----|----|
| 15 | |
| 幹事会 | 50 |

提 案

シンポジウム「高齢者の健康増進のための学際的アプローチ」の開催

1. 提案者 健康・生活科学委員会委員長
臨床医学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 健康・生活科学委員会 高齢者の健康分科会
臨床医学委員会 老化分科会
2. 共 催 財団法人 長寿科学振興財団
東京大学総括プロジェクト機構 ジェロントロジー寄付研究部門
3. 日 時 平成20年3月1日(土) 13:00 ~ 15:30
4. 場 所 東京大学 山上会館 本郷キャンパス内
(東京都文京区本郷7-3-1)
5. 次 第
 - 開催趣旨
高齢者の健康の実現に向けて、地域で支えあっていくあり方を指針として提示する
 - シンポジウム
座長 白澤政和(大阪市立大学) 北徹(京都大学)
 - 1) ヒトの寿命はどこまでのばせるか? -基礎科学からのメッセージ
白澤卓二(順天堂大学)
 - 2) 健康寿命をいかにのばすのか
辻一郎(東北大学)
 - 3) 高齢者の健康増進のための医療からの戦略
佐々木英忠(秋田看護大学)
 - 4) 高齢者の健康増進のための看護からの戦略
金川克子(石川県立看護大学)
 - 5) 高齢者の健康増進のための介護からの戦略
住居広士(県立広島大学)
 - 6) 高齢者の健康推進のためのまちづくり
芳賀博(桜美林大学)
6. 同日、東京大学において分科会を開催予定

| | |
|-----|----|
| 16 | |
| 幹事会 | 50 |

提 案

シンポジウム「専門薬剤師の必要性と今後の展望」

1. 提案者 薬学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主催：日本学術会議 薬学委員会専門薬剤師分科会
2. 共催：日本薬学会
3. 後援（予定）：厚生労働省、日本病院薬剤師会、日本薬剤師会、日本医療薬学会
4. 日時：平成20年3月11日（火）12：40～16：00
5. 会場：日本学術会議講堂
6. 次第

（開催趣旨）

日本学術会議では、薬学教育6年制がスタートしたことを機に、薬剤師の将来像を検討するためのテーマの1つとして専門薬剤師を取り上げ、今後の医療における薬剤師の役割と新たな展開について、多方面の関係者の参加を得て考えることを目的に、このたび「専門薬剤師の必要性と今後の展望」をテーマにシンポジウムを企画した。国内外の薬剤師の業務展開に詳しい専門家に講演をいただき、議論を深め、期待される薬剤師像について社会に向けて発信できることが期待される。

（プログラム）

総合司会 望月眞弓（共立薬科大学教授）

12：40～12：45

開会あいさつ 鶴尾 隆（（財）癌研究会・癌化学療法センター所長、日本学術会議会員）

シンポジウム

座長 内海英雄（九州大学大学院薬学研究院教授、日本薬学会会頭）、

乾 賢一（京都大学医学部附属病院教授・薬剤部長）

12 : 45 ~ 13 : 30

基調講演 日本における専門薬剤師の必要性とその将来

(群馬大学大学院医学研究科教授・附属病院薬剤部長 堀内龍也)

13 : 30 ~ 15 : 55

- 1) 米国における特色ある薬剤師職能と専門薬剤師 (神戸学院大学薬学部、赤穂榮一)
- 2) 我が国における薬局薬剤師の現状と将来 (日本薬剤師会専務理事 石井甲一)
- 3) 生命輝かそう専門薬剤師一葉の鉄人としての専門薬剤師 (赤穂市民病院長 邊見公雄)
- 4) 薬剤師職能の評価に関する新たな展開 (医療制度改革、診療報酬・調剤報酬の改正などから) (厚生労働省保険局医療課薬剤管理官 磯部総一郎)

総合討論

15 : 55 ~ 16 : 00

閉会あいさつ 眞弓忠範 (神戸学院大学ライフサイエンスセンター長・薬学研究科教授、日本学術会議会員)

| | |
|-----|----|
| 17 | |
| 幹事会 | 50 |

提 案

「グローバル・イノベーション・エコシステム 2008(GIES2008)」の開催

1. 提案者 大垣真一郎(第三部会員)、唐木英明(第二部会員)、北澤宏一(第三部会員)、
柘植綾夫(第三部会員)、林良博(第二部会員)、
2. 議案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主催 日本学術会議、内閣府、日本経済団体連合会、科学技術振興機構、
GIES2008 国際組織委員会
2. 後援 各省研究所、独法、大学、マスコミ、各機関
3. 協賛 企業等
4. 日時 平成20年3月13日(木)～14日(金)
5. 場所 学術総合センター(東京都千代田区一ツ橋 2-1-2)
6. 議事次第(案)

趣 旨: 気候変動や企業の競争力等地球規模の課題を解決し、持続的発展をとげるためにはグローバル・イノベーションを継続的に行うことが必要となる。これをサポートするためのグローバル・イノベーション・エコシステム(Global Innovation Ecosystem(GIES))について、その確立、活用の方策に関する議論を深めるため、第3回の国際会議を開催する(第1回2006年9月、第2回2007年6月)。会議での議論を踏まえて宣言をまとめ、本年7月に開催される洞爺湖サミットに向けた提言とすることを旨とする。

プログラム:

1 日目(3月13日(木))

開会

第1部 基調講演

第2部 地球規模の課題解決のための GIES

第3部 GIES 実現に向けた具体的提案

閉会・懇親会

2 日目(3月14日(金))

開会・

パラレルセッション(自然エネルギー、省エネルギー、水・食料、イノベーション等)

パネルディスカッション

閉会

(※ なお、1日目は公開、2日目は招待者のみ)

| | |
|-----|----|
| 18 | |
| 幹事会 | 50 |

提 案

公開シンポジウム 「グローバル化の中の法」の開催

- 1 提案者 法学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 法学委員会「グローバル化と法」分科会
2. 日 時 平成20年3月14日(金) 13:00～17:00
3. 場 所 日本学術会議5階 5-A(1)(2)会議室(東京都港区六本木7-22-34)
4. 分科会開催について 同日に開催予定
5. 次 第

開催趣旨

グローバル化の進展に伴い、法の在り方の変容をもたらしているので、グローバル化がどういう現象であるかを法の在り方から捉えるとともに、法におけるグローバル化の諸相を検討し、今後の分科会の活動の基礎を設定する。

開会あいさつ及び司会：櫻田嘉章（京都大学教授、日本学術会議会員）

I 講 演（13:00～16:00）

- 1) 小森田秋夫（東京大学教授、日本学術会議会員連携会員）
- 2) 吾郷眞一（九州大学教授、日本学術会議連携会員）
- 3) 高山佳奈子（京都大学教授、日本学術会議連携会員）
- 4) 道垣内正人（早稲田大学教授、日本学術会議連携会員）
- 5) 河野正憲（名古屋大学教授、日本学術会議連携会員）

II 討論など（16:00～17:00）

閉会あいさつ：未定

| | |
|-----|----|
| 19 | |
| 幹事会 | 50 |

提 案

シンポジウム「「幼児期から発育期の子どもの身体活動・スポーツガイドライン」作成のためのシンポジウム」の開催

1. 提案者 健康・生活科学委員会委員長
2. 議案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主催 日本学術会議 健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会
後援 舞踊学会、比較舞踊学会 他
共催 日本体力医学会 他
2. 日時 平成20年3月18日（火）シンポジウム 13:00-17:00
3. 場所 日本学術会議 講堂
4. 次第

(1) シンポジウム開催趣旨

次世代を担う子どもの数を増やすことと、その子ども達の健全な育成は、我が国の重要施策になっている。また、それは、親や指導者達の間人としての願いでもある。解決しなくてはならない課題は様々あるが、中でも、身体活動を如何に活発化させるかは、「動く」ことを基本とする人間にとって極めて重要なことである。しかし、子どもの身体活動・スポーツ活動の基準に関して、幼少期からの一貫した基準は示されていない。20才から69才の国民に対しては、平成17年、厚生労働省は生活習慣病の発症予防のための身体活動・運動量・体力の基準（健康づくりのための運動基準-身体活動・運動・体力-）を策定した。本基準の対象にならなかった19歳以下の国民にとっても、身体活動・運動は多くの観点から必要であると考えられる。

そこで、本シンポジウムでは、特に幼児期から発育期の子どもの身体活動・スポーツのあり方について、多面的な科学的エビデンスを基に、子どもの運動ガイドライン策定に向けた議論を行うものとする。

(2) プログラム

開会挨拶 加賀谷淳子（日本女子体育大学名誉教授 日本学術会議会員、日本学術会議健康生活・科学委員会委員長、健康・スポーツ科学分科会委員長）

シンポジウム 「幼児期から発育期の子どもの身体活動・スポーツ」

座長 大築立志（東京大学大学院総合文化研究科教授、日本学術会議連携会員）

田畑 泉（(独)国立健康・栄養研究所 健康増進プログラムリーダー、日本学術会

議連携会員、日本学術会議健康・スポーツ科学分科会幹事)

第一部

1) 子どもにとっての身体活動・運動の現状と問題点

体力科学的から 小林(寛)先生
文化人類学的観点から (未定) 先生
心理学的観点から 杉原先生(案)
医学的観点から 岡田先生(案)

第二部

1) 諸外国の子どもの身体運動ガイドライン

下光輝一先生(案)

2) 行政における取り組み

文部科学省の取り組み

鈴木 隆(文部科学省 スポーツ・青少年局 生涯スポーツ課長)

厚生労働省の取り組み

(未定)

3) 連携学会からの提案

4) 乳幼児から発育完了期のまでの子どもの身体運動ガイドライン案

(日本学術会議健康・スポーツ科学分科会から大築委員)

5) 総合討論

閉会挨拶 福永哲夫(案)(日本学術会議連携会員、健康・スポーツ科学分科会副委員長)

5. 分科会の開催 健康・スポーツ科学分科会を日本学術会議において開催

| | |
|-----|----|
| 20 | |
| 幹事会 | 50 |

提 案

シンポジウム「21世紀を豊かに生きるための科学技術の智」の開催

1. 提案者 科学と社会委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 科学力増進分科会
2. 共 催 文部科学省国立教育政策研究所
3. 日 時 平成20年3月19日（水）13：00～17：00
4. 場 所 日本学術会議講堂
5. 次 第

開催趣旨：

21世紀において、日本が真に生き生きとした豊かな社会となり、国際的にも貢献できることを目指して、プロジェクト「科学技術の智」を昨年から発足させた。7つの専門部会で検討を重ね、一般的な日本の成人が身につけておくべき科学技術の基礎的な知識や考え方（科学技術リテラシー像）を整理し核となる概念、方法を提示し、そのような基礎的素養をすべての成人が共有するための定着化についても検討を行った。

今回のシンポジウムは、「リテラシー像の内容及びリテラシー像定着に向けた取組戦略について意見聴取、周知」を目的として行う。

プログラム：

13：00 開会

全体司会：室伏きみ子（科学力増進分科会委員、お茶の水女子大教授、「科学技術の智プロジェクト」副委員長、日本学術会議連携会員）

13：00～13：10 開会挨拶

毛利 衛（科学力増進分科会委員長、日本科学未来館館長、「科学技術の智プロジェクト」評議会委員、日本学術会議会員）

13：10～13：50 基調講演 1

13：50～14：30 基調講演 2

14：30～14：40 休憩

14：40～15：00 本プロジェクトの紹介（評議会）

15：00～15：50 科学技術リテラシーの報告（北原委員長）

15：50～16：50 質疑応答

16：50～17：00 閉会挨拶

有馬 朗人（日本科学技術振興財団会長・科学技術館館長、「科学技術の智プロジェクト」評議会会長、日本学術会議連携会員）（評議会）

17：00 閉会

| | |
|-----|----|
| 21 | |
| 幹事会 | 50 |

シンポジウム「地球環境の変動 - 科学の目で見るその面白さ」の開催

1. 提案者 地球惑星科学委員会委員長
2. 議案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主催 地球惑星科学委員会
2. 後援 日本地球惑星科学連合
3. 日時 平成20年3月21日(金) 10:00～17:00
4. 場所 日本学術会議講堂

5. 次第
開催趣旨

地球惑星科学は、地球の環境変動について、過去に起きた多様な変動、その原因、現在社会的に関心をもたれている変動の仕組み、人間社会の対応、その将来などについてきわめて多様な研究を進めている。これを高校生、一般の人に広く紹介し、自然環境の変動のしくみのおもしろさの理解を進める。

開会あいさつ：平 朝彦（海洋研究開発機構、日本学術会議会員）

講演（10:10～17:00）

- 1) 生命を育む環境をもつ惑星 - ハビタブルプラネット
井田 茂（東京工業大学大教授）
- 2) 地球環境の歴史を紐解く - 変動を支配するものはなにか
丸山 茂徳（東京工業大学大教授）
- 3) 10万年ごとに訪れる氷河期
阿部 彩子（東京大学準教授）
- 4) 氷床の崩壊で激変した気候
横山 祐典（東京大学準教授）
- 5) 都市の気候変化は地球規模の気候変動を起こすか
三上 岳彦（首都大学教授、日本学術会議連携会員）
- 6) 地球環境危機の時代の土地利用を考える
氷見山 幸夫（北海道教育大教授、日本学術会議連携会員）
- 7) 地球環境の変動が海の環境・生態系にもたらすもの - 北太平洋と北大西洋のむすびつき
原田 尚美（海洋研究開発機構）
- 8) 気候の将来予測はどのくらい正しいのか？
木本 昌秀（東京大学教授）

| | |
|-----|----|
| 2 2 | |
| 幹事会 | 50 |

提 案

公開シンポジウム
「グローバル化と社会政策－排除から包摂へ－」の開催

- 1 提案者 社会学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 社会学委員会 包摂的社会政策に関する多角的検討分科会
社会政策関連学会協議会設立準備委員会
 2. 日 時 平成20年3月22日(土) 13:00 ~17:00
 3. 場 所 東京大学赤門総合研究棟6番教室(文京区本郷7-3-1)
4. 次 第

開催趣旨

少子高齢化、グローバル化などの社会・経済変動のなかで、新たな社会政策が切実に求められている。先進諸国を中心とするポスト工業化のもと、新興国・途上国・移行国を含む諸社会で、①女性の労働力率の上昇、②人口の高齢化、③技術革新等による労働市場の変容、④規制緩和や社会サービスの民営化などに伴い、「新しい社会的リスク」と呼ばれる問題が浮上している。

先進諸国では、従来の社会的リスクを福祉国家によって克服したと考えられたが、格差問題やワーキングプアをはじめとする各種の社会的排除が露わになっている。社会的包摂をめざして社会政策を広い意味で捉えて再構築することは、日本を含む先進諸国の共通課題であり、後発国に及ぼす影響も大きい。

本シンポジウムは、ポスト工業化社会が直面する新しい社会問題を総合的に分析し、社会学、法学、政治学、社会福祉学、経済学などの多角的な連携により、問題解決に向けた包摂的社会政策を構想する第一歩としたい。

総合司会 古川孝順(東洋大学教授、包摂的社会政策に関する多角的検討分科会委員長、日本学術会議連携会員)

コーディネーター・討論司会 大沢真理(東京大学教授、包摂的社会政策に関する多角的検討分科会副委員長、日本学術会議会員)

I 講 演 (13:10 ~15:10)

- 1) 宮本太郎(北海道大学大学院教授、包摂的社会政策に関する多角的検討分科会委員、日本学術会議連携会員)
- 2) 林弘子(福岡大学教授、日本学術会議連携会員)
- 3) 木下武男(昭和女子大学教授)
- 4) 大友信勝(龍谷大学教授)

Ⅱ 討論など（15：20 ～17：00）

討論者

- 1) 三重野卓（山梨大学教授）
- 2) ます美（昭和女子大学教授）

一般討論

閉会あいさつ：武川正吾（東京大学大学院教授、包摂的社会政策に関する多角的検討分
科会委員、日本学術会議連携会員）

参加申込方法

E-mailもしくはFaxにて必要事項（氏名、所属、連絡先電話番号、E-mailアドレス）
をご記入の上、以下の問い合わせ先担当宛、お申し込みください。

準備中

E-mail: Fax:

* 定員（350名）となり次第、締め切りとさせていただきます。

| | |
|-----|----|
| 23 | |
| 幹事会 | 50 |

提 案

公開シンポジウム 「これからの社会福祉教育
—社会福祉士のカリキュラム改正に向けて—」の開催

- 1 提案者 社会学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 社会学委員会社会福祉学分科会
2. 共 催 社会福祉系学会連合
3. 日 時 平成20年3月28日(金) 10:00～12:30
4. 場 所 東洋大学 白山校舎 6号館 101号室(文京区白山5-28-20)
5. 次 第

開催趣旨

10年先を見越した大学・大学院での社会福祉教育について議論する。

開会あいさつ：白澤政和(大阪市立大学大学院教授、日本学術会議会員)

シンポジウム(10:10～12:30)

シンポジスト

中野いく子(東海大学教授、日本学術会議連携会員)
古川孝順(東洋大学教授、日本学術会議連携会員)
牧里每治(関西学院大学教授、日本学術会議連携会員)

コメンテーター

上野谷加代子(同志社大学教授、日本学術会議連携会員)
平岡公一(お茶の水大学教授、日本学術会議連携会員)

コーディネーター

白澤政和(大阪市立大学大学院教授、日本学術会議会員)

参加申込方法

E-mailもしくはFaxにて必要事項(氏名、所属、連絡先電話番号、E-mailアドレス)をご記入の上、以下の問い合わせ先担当宛、お申し込みください。

日本社会福祉学会事務局 担当：林

E-mail: jsssw@jt2.so-net.ne.jp Fax: 03-3356-7820

*定員(300名)となり次第、締め切りとさせていただきます。

| | |
|-----|----|
| 24 | |
| 幹事会 | 50 |

提 案

シンポジウム「ものづくりイノベーションに向けた生産科学提言」に向けて

1. 提案者 機械工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議機械工学委員会生産科学分科会
2. 日 時 平成20年3月28日（金）13：00～17：00
3. 場 所 日本学術会議講堂
4. 議事次第

開催趣旨：日本学術会議機械工学委員会生産科学分科会では、21世紀ものづくり概念を科学として正確に捉え体系化し広く提言することとしました。その一環として、昨年引き続き、今回、第2回のシンポジウム「ものづくりイノベーションに向けた生産科学提言」を生産学術連合会議およびエコデザイン学会連合と共催し、分科会の提言を報告し、それに対して広く一般からご意見をいただき、学術会議提言に反映させることにしました。

プログラム：

- 1) 開催趣旨： 古川勇二（会員、機械工学委員会委員、生産科学分科会委員長、東京農工大学大学院教授、技術経営研究科長）
- 2) 基調スピーチ
 - ・「生産科学提言の概要」
古川勇二（会員、機械工学委員会委員、生産科学分科会委員長、東京農工大学大学院教授、技術経営研究科長）
 - ・「生産学術連合会議の活動
ーコンバーGINGテクノロジー活用による生産革命ー（仮題）」
青山藤詞郎（連携会員、機械工学委員会委員、生産学術連合会議代表、慶応義塾大学理工学部教授）
 - ・「エコデザイン学会連合の動向ーエコデザイン活用による生産革命ー（仮題）」
須賀唯知（会員、機械工学委員会委員、エコデザイン学会連合代表、東京大学大学院工学研究科教授）
 - ・「生産科学によるものづくりイノベーション（仮題）」
稲崎一郎（会員、機械工学委員会委員、中部大学教授、総合工学研究所長）

3) パネル討論

コーディネーター：

- 清水伸二（連携会員、機械工学委員会委員、上智大学理工学部教授）
- 帯川利之（連携会員、機械工学委員会委員、東京大学生産技術研究所教授）

パネリスト：

上記6名および機械工学委員会生産科学分科会委員（添付）、ならびに、文部科学省科学技術政策研究所、独立行政法人科学技術振興機構、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構等からのパネリストを予定

| | |
|-----|----|
| 25 | |
| 幹事会 | 50 |

提 案

フォーラム「医学系における公衆衛生大学院」の開催

1. 提案者 基礎医学委員会委員長
健康・生活科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主催 日本学術会議 基礎医学委員会・健康・生活科学委員会合同
パブリックヘルス科学分科会
2. 日時 平成20年3月28日（金）17:00～19:00
3. 場所 熊本市民会館・大会議室
4. 次第

(1) 開催趣旨

急速な少子高齢化の進行、生活習慣病の増加、新興・再興感染症の発生、労働現場における自殺や過労死の増加、医療安全や医療の質への関心の高まり、医療費増加や医療経営環境の悪化などの社会的背景から、健康と医療に関わる問題について俯瞰的・体系的な取り組みのできる専門家の養成が求められている。国の政策においても、文部科学省中央教育審議会が2005年秋の報告書「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて」で公衆衛生の専門職大学院を提言するなど、公衆衛生大学院に対する社会的関心が高まっている。

本フォーラムでは、国内の公衆衛生に関わる3つの専門職大学院の教育責任者と他大学の関連の研究者らによる情報交換や討論を通して、わが国の公衆衛生大学院の今後の方向性を示したい。

(2) プログラム

開会挨拶 岸 玲子（北海道大学）

座長 小林 章雄（愛知医科大学）

講演

- 1) 京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻について
小杉 眞司（京都大学）

2) 九州大学大学院医学系学府医療経営・管理学専攻の理念と実践

馬場園 明 (九州大学)

3) 東京大学の公衆衛生大学院の概要

小林 廉毅 (東京大学)

指定発言

金川 克子 (石川県立看護大学)

山本 正治 (新潟大学)

演者および参加者での討論

閉会挨拶 實成 文彦 (香川大学)

5. 分科会の開催について

熊本市において分科会を開催予定

| | |
|-----|----|
| 26 | |
| 幹事会 | 50 |

提 案

公開シンポジウム

「地域の知」の統合に向けて：地域情報データベースの利活用」の開催

- 1 提案者 地域研究委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議地域研究委員会地域情報分科会、社団法人日本地理学会
2. 日 時 平成20年3月29日（土）13：00～17：00（予定）
3. 場 所 獨協大学 （草加市学園町1-1）
4. 次 第

開催趣旨

地域研究においては膨大な地域情報が蓄積されてきた。しかしながら、近年のGIS技術の発展やインターネットの普及にも関わらず、デジタル化された地域情報が十分に活用されているとは言い難い。国内外の研究者が共同利用可能な地域情報データベースの構築、ひいては、「地域の知」基盤整備に向けて、地域情報をめぐる様々な問題点や、制度的、技術的、実施的、社会的課題、などを議論する。

司会：岡本耕平・矢野桂司

13:00～13:05 趣旨説明（岡部篤行（東京大学教授、日本学術会議会員））

13:10～16:00 発表
(2時間50分=170分) 各22分で7名

水島司（東京大学）「歴史分析へのGIS導入の可能性と課題：南インドを対象に」
池谷和信（国立民族学博物館）「アフリカ地域研究とデジタル化した地域情報」
小林茂（大阪大学）、村山良之（山形大学）、宮澤仁（お茶の水女子大学）「外邦図および日本軍撮影空中写真のデータベース化とその課題：戦前期の地域資料の活用に向けて」

山本晴彦（山口先生）「満州気象資料のデータベース化による中国東北地区の気候変動解析」

高阪宏行（日本大学）「地理情報デジタルアーカイブの構築と高度利用」

原正一郎（京都大学）「地域研究の視点からの情報資源の共有化ー時空間情報の高度利用ー」

浅見泰司（東京大学）「『「地域の知」の統合』提言文書について（仮）」

16:00～16:55 討論（55分）

16:55～17:00 閉会挨拶（柴山守（京都大学教授、日本学術会議連携会員））

| | |
|-----|----|
| 27 | |
| 幹事会 | 50 |

提 案

公開シンポジウム「水産学と日本水産学会の未来」の開催について

- 1 提 案 者 生産農学委員会委員長
- 2 議 案 標記公開シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

- 1 主 催：日本学術会議水産学分科会、日本水産学会
- 2 日 時：平成20年3月31日（月）9:30～17:00
- 3 場 所：東海大学海洋学部（静岡県静岡市清水区折戸3-20-1）
- 4 分科会の開催：水産学分科会を同会場において開催
- 5 次 第：

開催趣旨

近年の産業構造・経済情勢の変化と学問分野の多様化・専門化により、水産学、水産科学を取り巻く情勢は大きく変化しつつある。日本学術会議水産学分科会と日本水産学会は、今、社会と学問の動向をしっかりと見据え、大きく進化する時が来た。そこで、「水産学とは何か?」「水産学会とは何か?」根源的な問いに立ち返り、水産学と日本水産学会の未来を模索する必要があるため、日本学術会議水産学分科会と日本水産学会が共同でシンポジウムを主催し、水産学の再生とさらなる発展のための具体的・実践的な改革案を得ることを狙いとしました。

プログラム（案）

開会挨拶と趣旨説明 9:30～ 青木 宙

1. 学会の役割とあり方 9:40～

座長 竹内俊郎（東京海洋大学教授、大学院海洋科学技術研究科長、
日本学術会議水産学分科会幹事）

- (1) 水産試験場 永田光博（北海道孵化場）
- (2) 民間企業 未定
- (3) 水産研究所 独立法人水研センター研究者（未定）
- (4) 大学 伏見 浩（福山大学）
- (5) 連携 山内皓平（北海道大学大学院水産科学研究院特任教授、
日本学術会議会員、日本学術会議水産学分科会委員長）

座長のまとめ

2. ランチョンセミナー 12:00～

座長 塚本勝巳

- (1) 新素材の機能と応用 又平芳春 (焼津水産化学工業)
- (2) 産学連携のススメ 矢澤一良 (東京海洋大学)
- (3) ジャーナリストの目 井田徹治 (共同通信社)

3. 改革のアクションプラン 13:30～

座長 渡部終五 (日本水産学会副会長、東京大学大学院農学生命科学研究科教授、
日本学術会議水産学分科会委員)

- (1) 財務 本城凡夫 (九州大学教授)
- (2) 研究 塚本勝巳
- (3) 社会連携 東海 正 (東京海洋大学教授)
- (4) 政策 黒倉 寿 (東京大学教授)

座長のまとめ

4. パネルディスカッション 15:30～

座長 青木 宙

パネラー

會田勝美 (日本水産学会会長、日本学術会議水産学分科会副委員長)

各地方支部若手会員 7名

閉会挨拶 山内皓平 17:00

| | |
|-----|----|
| 28 | |
| 幹事会 | 50 |

提 案

公開シンポジウム

「昆虫科学が拓く世界 –研究者の再結集を目指して–」の開催

- 1 提案者 生産農学委員会委員長
- 2 議 案 標記公開シンポジウムを下記のとおり開催すること

記

1. 主 催 日本学術会議 生産農学委員会応用昆虫学分科会、日本昆虫学会、日本応用動物昆虫学会、日本蚕糸学会、日本環境動物昆虫学会、日本衛生動物学会、日本鱗翅学会、日本農薬学会、日本農芸化学会、京都大学COE（昆虫科学が拓く未来型食料環境学の創生）
2. 後 援 日本蜘蛛学会、日本ダニ学会、日本野蚕学会（予定）
3. 日 時 平成20年5月16日（金）10：00～17：00
4. 場 所 日本学術会議講堂
5. 分科会 同日、応用昆虫学分科会を開催予定
6. 次 第

開催趣旨

わが国の昆虫科学は常に世界のこの分野を先導してきた。この実績を継承発展させるためには、昆虫学関連のあらゆる分野の研究者が今一度それぞれの課題を持ち寄り、昆虫科学研究の学術的かつ社会的な基盤を強化拡大しなければならない。その第一歩として本シンポジウムを開催し、昆虫研究者のコミュニティーの再構築を図る契機にする。

プログラム

第1部（10：00～12：05）昆虫学関連学協会 of 活動の現状と課題

司会：田付貞洋（東京大学大学院農学生命科学研究科教授、応用昆虫学分科会委員）

1) 開会挨拶、趣旨説明

山下興亜（中部大学学長、日本学術会議会員、応用昆虫学分科会委員長）

2) 学会代表者による「活動の現状と課題」に関する講演

日本昆虫学会、日本応用動物昆虫学会、日本蚕糸学会、日本環境動物昆虫学会、日本衛生動物学会、日本鱗翅学会、日本農芸化学会

3) 総合討論

—休憩—（12:05～13:00）

第2部（13：00～16：10）日本の昆虫学研究の現状と展望

司会：小林迪弘（名古屋大学大学院生命農学研究科教授、応用昆虫学分科会委員）

1) 山下興亜

「昆虫学への期待」

- 2) 湯川淳一（九州大学および鹿児島大学名誉教授、元九州大学総合研究博物館館長）
「生物多様性と群集動態」
- 3) 中筋房夫（岡山大学大学院環境学研究科教授、応用昆虫学分科会委員）
「害虫防除と生態学」
- 4) 鎮西康雄（三重大学医学部客員教授、応用昆虫学分科会委員）
「衛生昆虫学と感染症研究」
- 5) 嶋田 透（東京大学大学院農学生命科学研究科教授、応用昆虫学分科会幹事）
「昆虫ゲノム研究」

－休憩－（14:50～15:00）

- 6) 竹田 敏（(独)農業生物資源研究所昆虫科学研究領域長、応用昆虫学分科会委員）
「昆虫機能利用と技術開発」
- 7) 藤崎憲治（京都大学大学院農学研究科教授、応用昆虫学分科会委員）
「昆虫に学ぶ科学(Entomomimetic Sciences)の創成」
- 8) 佐々木正己（玉川大学農学部 生物資源学科教授、国際昆虫学会議 評議員）
「世界の昆虫研究の動向と日本の役割」

第3部（16:10～16:55）

パネルディスカッション「わが国の昆虫学発展のために何をなすべきか？」
：昆虫学関連学協会間の連携強化策としての『日本昆虫学連合（仮称）』の設立

司会：國見裕久（東京農工大学大学院共生科学技術研究院教授・大学院連合農学研究科長、応用昆虫学分科会副委員長）

パネラー：第1部講演者他

閉会の辞 國見裕久

参加申込方法

当日直接会場にお越し下さい。

*定員（300名）となり次第、締め切りとさせていただきます。

問い合わせ先担当：

後藤千枝 中央農業総合研究センター 総合的害虫管理研究チーム
TEL: 029-838-8846, FAX: 029-838-8837 Email: cgoto@affrc.go.jp

嶋田 透 東京大学 大学院 農学生命科学研究科 昆虫遺伝研究室
TEL: 03-5841-8130, FAX: 03-5841-8011 Email: toru@ss.ab.a.u-tokyo.ac.jp

| | |
|-----|----|
| 29 | |
| 幹事会 | 50 |

提 案

公開シンポジウム「地球環境問題の現状と私たちの健康・産業保健の役割」の
開催

1. 提案者 健康・生活科学委員会・環境学委員会合同
環境リスク分科会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議健康・生活科学委員会・環境学委員会合同
環境リスク分科会
共 催 第81回日本産業衛生学会
2. 日 時 平成20年6月27日（金）9：00～11：00
3. 場 所 札幌コンベンションセンター
4. 次 第

開催趣旨

現代社会に住む我々は、多くの環境リスクに曝されている。特に石油化学工業の発展に伴い、大量生産による大量消費が一種の美德とされ、多くの公害や環境破壊の一因となった。さらに最近は、地球環境問題としての気候変動や、廃棄物の問題が喧伝され、二酸化炭素排出量の削減、循環型社会への転換は急務とされている。今回のシンポジウムは、北海道で開催される産業衛生学会との共催であること、また地球環境問題を話し合う「G8 北海道洞爺湖サミット」が開催されることから、地球環境問題として、海洋と温暖化の関連、経済学からみた循環型社会、温暖化の健康影響を取り上げ、合わせて産業保健はこれらの分野の問題にどのようにかかわっていくべきかを、主に産業衛生の専門家、行政、市民と意見を交わすことを目的としている。このシンポジウムを通して得られた情報や資料を基にして、日本学術会議の対外報告に資する。

9:00～9:05 開会挨拶

岸 玲子（北海道大学大学院医学研究科予防医学講座公衆衛生
学分野教授，日本学術会議会員，日本学術会議健康・
生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会委員長）

講 演

座長：吉野 博（東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻/
サステナブル環境構成学分野教授，日本学術会議
連携会員）

9:05～9:35

(1) 「人類が直面する地球環境激変」

池田 元美（北海道大学地球環境科学研究院 教授）

9:35～10:05

(2) 「地球温暖化と健康への影響予測」

内山 巖雄（京都大学大学院工学研究科 教授，日本学術会議連携
会員）

10:05～10:35

(3) 「循環型社会と経済分析」

吉田 文和（北海道大学公共政策大学院 教授）

10:35～10:55 質疑・応答

10:55～11:00 閉会挨拶

未 定

| | |
|-----|----|
| 30 | |
| 幹事会 | 50 |

提 案

国内会議の後援

- 1 提案者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

| 名 称 等 | 申 請 者 | 審 議 付 託 先 |
|--|--|--------------|
| 平成 19 年度教育改革国際シンポジウムー学校教育における科学的リテラシーの現状と今後の育成方策ー ① 主催：文部科学省、国立教育政策研究所、ブリティッシュ・カウンシル ② 会期：平成 20 年 3 月 8 日～9 日 ③ 場所：国連大学ウ・タント国際会議場 | 国立教育政策 研究所長 | 各部 |
| 土と肥料の講演会 ① 主催：社団法人日本土壌肥料学会 ② 会期：平成 20 年 4 月 4 日 ③ 場所：東京大学山上会館 | 社団法人日本 土壌肥料学会 会長 | 第二部 |
| グローバル環境教育国際会議 2008 ① 主催：国立大学法人北海道教育大学 ② 会期：平成 20 年 7 月 5 日～6 日 ③ 場所：北海道教育大学札幌キャンパス | 国立大学法人 北海道教育大 学長 | 第三部 |
| 第 21 回日本歯科医学総会 ① 主催：日本歯科医師会、日本歯科医学会 ② 会期：平成 20 年 11 月 14 日～16 日 ③ パシフィコ横浜 | 日本歯科医学 会会長、第 21 回日本歯科医 学会総会会頭 | 第二部 |

科研費の繰越申請手續をしよう

— 予算単年度主義からの解放への一里塚 —

日本学術振興会・学術システム研究センター

石井 紫郎

科研費等、国からの研究費補助金は、予算単年度主義という会計法上の原則の適用を受けて、年度内に使い切るのが原則となっています。これは、国家予算（歳入・歳出）を国民の代表＝議会のコントロールの下に置く趣旨から来た原則です。

しかし、これが研究にとって誠に不合理な結果を招くことが多いことは、私たちが日ごろ痛感するところです。予算単年度主義という国民主権に根ざす原則と弾力的・効果的研究遂行とのバランスをどう取るかは難しい問題ですが、たとえば米国では、単年度主義の拘束は研究費配分機関（省庁や NSF、NIH 等の研究費配分エージェンシー）までは及ぶが、研究者には及ばない、というやり方を採っています。

これをわが国でも実現するための第一歩として、科研費の年度繰越使用が必要な人はどんどんこの申請手續を取ろうではありませんか。

何故そうすべきなのか？ そのココロは次のとおりです：

現状から一挙に米国方式へジャンプしようとしても、財務省や法制局に認めてもらえません。私たちが今出来るのは、この繰越の認可申請（正式には「繰越明許申請」）だけなのです。そして、昨年からの申請が、関係者の努力で従来より容易に認められるようになり、従来毎年数十件程度であった明許が一挙に 640 件を越えるところまで改善されました。「蟻の一穴」があいたのです。この数を今年は更に一桁以上増やそうではありませんか。

そうなると、大量の申請を短期間に処理するために、手續の定型化・簡素化が必然となります。こうやって、どんどん「穴」を大きくすればするほど、手續は簡素化するのです。申請書類の簡素化に止まらず、財務省が申請書類をチェックする現在の体制も見直しすることになると思われます。

こうして、書類のチェックは文部科学省や日本学術振興会に一任する、という日が間もなくやってきます。それは《米国のシステムの一步手前》に他なりません。このような形で繰越明許の事例が無数に積み重なって行けば、研究は計画通りに進まないのが当たり前、という認識が広がるはずで、そして結局は「米国と同じでいいじゃないか」という合意が霞ヶ関で出来上がるでしょう。

このシステムは、実は研究費の不正・不適切な使用を決定的に減らす道でもあります。研究の進捗状況に合わせて研究費を効果的に使える制度の要となるのが、この公的研究費の年度縛りからの解放です。それに向けての第一歩を踏み出しましょう。

外部へ公表する文書の取扱いについて

平成 20 年 1 月 24 日
日本学術会議第 50 回幹事会決定

日本学術会議が「科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させる」などの職務を実施するにあたっては、委員会等における審議の状況や結果などを適宜とりまとめて外部へ公表していくことが有効である。このため、「各委員会の活動状況の外部への積極的な情報提供について（平成 10 年 4 月 23 日 広報委員会）」なども参考に、外部へ公表する資料を適切に管理することを目的として、「記録」と称する文書区分を新たに設けることとし、当面、以下のとおり運用することとする。

1. 会則第 2 条に定める「意思の表出」以外の文書であって、外部に公表することを意図するもの（別途、公開のための手続きを経ているものを除く。）については、「記録」と称して適切に管理することとする。「記録」とすることができる文書の例は、次のとおりである。
 - (1) 委員会、分科会等における審議経過、審議結果
 - (2) 調査資料、文献目録、基礎データ、アンケート調査結果等それ自体に価値があり将来活用される可能性のあるもの
 - (3) 「意思の表出」を補足する資料
 - (4) 広く意見を求める等のために外部に公開することが必要な文書
 - (5) その他各部が必要と判断するもの
2. 「記録」の内容や作成等に関する一切の責任は、各部が負うものとする。各委員会・分科会が作成する「記録」についても、関連する部が責任を負うものとする。
3. 「記録」を作成した場合には、外部に公表する前に、作成の事実と作成した文書の概要等を幹事会へ報告することとする。やむを得ず公表前に報告することができなかつた場合には、公表後直近の幹事会へ報告することとする。
4. 「記録」は「意思の表出」ではないことに留意し、誤解を生じるおそれのある表現や体裁を避けるとともに、文書の表紙に「この記録は、日本学術会議あるいは各部・委員会・分科会等の意思を表明するものではない。掲載されたデータ等には確認を要するものが含まれる可能性がある。」という趣旨の注記を入れる。
5. 「記録」には、別途定める文書番号を付する。
6. 「記録」とした文書についてはホームページに掲載するなどにより、将来にわたって誰でも参照することができるようにする。

参考3

○日本学術会議における今後の予定

(1) 幹事会

- | | | | |
|-----------|-------|----------|---------|
| ① 第51回幹事会 | 平成20年 | 2月14日(木) | 14:00から |
| ② 第52回幹事会 | 平成20年 | 3月6日(木) | 14:00から |
| ③ 第53回幹事会 | 平成20年 | 4月7日(月) | 総会終了後 |
| ④ 第54回幹事会 | 平成20年 | 4月8日(火) | 総会終了後 |
| ⑤ 第55回幹事会 | 平成20年 | 4月9日(水) | 委員会終了後 |
| ⑥ 第56回幹事会 | 平成20年 | 5月22日(木) | 14:00から |
| ⑦ 第57回幹事会 | 平成20年 | 6月26日(木) | 14:00から |
| ⑧ 第58回幹事会 | 平成20年 | 7月24日(木) | 14:00から |
| ⑨ 第59回幹事会 | 平成20年 | 8月28日(木) | 14:00から |
| ⑩ 第60回幹事会 | 平成20年 | 9月4日(木) | 14:00から |
| ⑪ 第61回幹事会 | 平成20年 | 9月18日(木) | 14:00から |

(2) 総会

- | | | | | | |
|---------|----------|----|-------|----|----------|
| ① 平成20年 | 4月7日(月) | から | 9日(水) | まで | [春の定例総会] |
| ② 平成20年 | 7月14日(月) | | | | [臨時総会] |